

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数			全体
0 建築物の環境品質										3.4
Q1 室内環境										3.9
1 音環境				3.0	0.15					3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-			
1.2 遮音				3.0	0.40					
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	-			
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境				4.3	0.35					4.3
2.1 室温制御				4.3	0.50					
1 室温		平常時ΔT=10K or ΔT=13Kで室内26℃を達成 ピーク時に給気温度を3℃下げることが可能な容量を持つため室内23℃を達成可能		5.0	0.38	3.0	-			
2 外皮性能		PC板外壁 U=0.67、角波外壁 U=0.35、 屋根 U=0.51、窓 SC0.31、U=1.7		4.0	0.25	3.0	-			
3 ゾーン別制御性		ペリメータ+インテリシアソーニング、冷暖フリーVAVシステム		4.0	0.38					
2.2 湿度制御		冷水コイルによる除湿、加湿器による加湿 冬季絶対湿度 ・外気:0.0014kg/kg ・室内(40%時):0.0070kg/kg ・室内(45%時):0.0079kg/kg 加湿器能力は20%の余力を持つため、最大の室内絶対湿度は0.0081kg/kgとなり45%を達成可能		5.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		部分的に放射空調を採用		4.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境				3.1	0.25					3.1
3.1 昼光利用				1.8	0.30					
1 昼光率				1.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口				-	-	-	-			
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策				3.0	0.30					
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御		DALI制御による個別点滅制御		5.0	0.25	3.0	-			
4 空気環境				4.7	0.25					4.7
4.1 発生源対策				5.0	0.50					
1 化学汚染物質		内装のすべてを規制対象外材料(F☆☆☆☆)としている。さらに接着剤はホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ないものを採用。		5.0	1.00	3.0	-			
4.2 換気				4.0	0.30					
1 換気量		ベース25m ³ /hに対して1.4倍以上に増量が可能		5.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		隣棟の排気なし、空調機の給排気6m離隔確保		4.0	0.33	3.0	-			
4.3 運用管理				5.0	0.20					
1 CO ₂ の監視		CO ₂ 自動計測+CO ₂ 制御		5.0	0.50					
2 喫煙の制御		建物内禁煙としている		5.0	0.50					
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-			3.8
1 機能性				3.6	0.40					3.6
1.1 機能性・使いやすさ				3.6	0.40					
1 広さ・収納性		1人当たりの執務スペース12m ² 以上。		5.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画				3.0	0.33					
1.2 心理性・快適性				3.3	0.30					
1 広さ感・景観				2.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		1階に売店、4~6階自販機設置、2階食堂は昼食時間外はリフレッシュスペースとしても利用。テラスもあり。		5.0	0.33					
3 内装計画				3.0	0.33					
1.3 維持管理				4.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計		内装材は防汚性の高い仕上げとし、外装は防錆性の高い部材を使用。水回りにはパイプシャフトを設ける。設備機器は屋外または機械室に設置。		4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		トイレ内専用の流し、外装ガラスの清掃検討対応した設計等により確保。		4.0	0.50					
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30					3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50					
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80					
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30					
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		使用目的に合わせより耐久性の高い仕上げ材料とした。		4.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外・厨房排気はガルバリウム(ラッキング除く)、内部結露排水管あり		5.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		冷温水:D、給水:B、汚水雑排水:B		4.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		主要空調機:エアハン、主要熱源:吸収式冷凍機50%+空冷チラー50% 電気・ガスの複合熱源で構成されており、熱源更新はいずれか単独ではなく同時更新が想定される。また主要設備である空調機の更新とも併せて20年前後での設備更新が想定される。		4.0	0.20					
2.4 信頼性				3.4	0.20					
1 空調・換気設備		空調機を適切に分割		5.0	0.20					
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20					
3 電気設備				3.0	0.20					
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20					
5 通信・情報設備				3.0	0.20					

3 対応性・更新性			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	各階高4.2m以上確保。	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	階段EV等のコアやEPS等の設備は外周部に配置、壁ダクト等一部外周部に設置することで、使いやすい室内形状・空間の自由さを確保。壁長さ比0.12	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		建物の大半を占める実験研究エリア・屋上部を4500N/m ² で計画。	5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			4.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	大半が屋外配管	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	大部分天井表しにつき、幹線更新容易	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	大部分天井表しにつき、幹線更新容易	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	屋上設備架台にメンテナンスルート確保	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	屋上にバックアップスペースを確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI_BPI _m = 0.78	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] : 0.79	3.1	0.50	-	-	3.1
4 効率的運用			5.0	0.20	-	-	5.0
集合住宅以外の評価			5.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	クラウドBEMSの導入、熱源・空調機・蓄熱・太陽熱効率	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	クラウドBEMSの導入によるエネルギー管理業務支援	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓、擬音装置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		既存深礎杭の利用(引き抜くことで地盤が緩むことを避けるために残置することでの有効利用)	5.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		OAフロア下地合板	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内壁: 軽量鉄骨下地ボード壁、スチールパーティションを採用→躯体から容易に分別可能。配管配線が躯体・仕上材に埋め込まれていない。	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	炭化水素系発泡剤採用のノンフロン断熱材を使用。	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率81%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	厨房排水を排出基準以上の水質まで処理。 BOD(生物化学的酸素要求量) ≤ 300、 SS(浮遊物質量) ≤ 300	4.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	通勤時間帯のシャトルバスの運行、荷捌き用駐車スペースの確保、社員の自動車利用は原則認めていない。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	